

分類 番号	A9	取組 名称	舞鶴市における今後の地域コミュニティのあり方に関する調査・研究 ～市民サービスとしての廃棄物施策の見直しを通して～
研究代表者：	公共政策学部	職・氏名：	准教授・菱木 智一
研究担当者：	京都府立大学：公共政策学部（菱木智一、杉岡秀紀）、生命環境科学研究科（山川肇）、 京都政策研究センター（青山公三、永田恵理子） 舞鶴市：生活環境課美化推進係		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
・舞鶴市			
【研究活動の要約】			
<p>平成26年度に京都政策研究センターが舞鶴市から委託を受け、「ごみ問題を考える自治会長の意見交換会」の運営に関与するとともに、生命環境科学研究科の山川教授に舞鶴市のごみ問題の課題等について講演いただいた。</p> <p>その結果、課題として明確になった市の分別収集の方法に加えて、自治会加入世帯の減少による自治会求心力の低下や少子高齢化による地域コミュニティの危機的な状況が明らかになった。</p> <p>そこで、市民が日常的に身近に考えることのできる廃棄物施策の見直し（ごみの分別の方法や、回収回数、回収場所の問題等々）という具体的なテーマを中心に据えて、持続可能な地域コミュニティのあり方について調査・研究を行い、地域貢献に努めていきたいと考えた。</p> <p>そこで、ごみ収集の現場の視察により、市のごみの現状を把握し、また、農村地域・市街地地域・農住混合地域という3か所の住民からごみ収集に関してヒアリングを行うとともに、高齢者の廃棄物処理の実態を探るべく、高齢者自身や福祉ヘルパーの方々にもお話を伺った。</p> <p>その上で、市民2000人を対象にアンケート調査を実施し、ごみに係る課題の明確化とそれに対する市民意識の所在・方向性を探った。</p>			
<p><活動状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H27. 7.15 市リサイクルプラザを視察 ・ H27. 7.16 不燃ごみの回収現場を視察 ・ H27. 9.23 ごみ回収について、3地区で住民からヒアリング ・ H27. 11.1 ごみ回収について、福祉施設のヘルパーさんや高齢者世帯の方からヒアリング ・ H28. 2 市民2000人を対象に、ごみ収集等に関する意識調査アンケートを実施 			
※ 上記以外にも、随時市と打合せを実施			
【研究活動の成果】			
<p>調査の結果、ごみ収集に対する次のような市民意識が確認できた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高齢によるごみ出しの困難化については、一部自己負担による有料回収の可能性がある。ただし、認知症や要介護者については別途対応が必要。 ② 立ち番廃止は時期尚早。収集や分別の見直しにより立ち番の負担を減らし、立ち番廃止に向けての地域づくりを考えていく必要はある。 ③ リサイクルプラザへの持ち込みを規制する際には、現状集積所に出しにくい理由がある人々への配慮政策を併せて考慮しないと、不法投棄や不適正分別排出の問題の恐れがある。 ④ 自治会非加入者は1割未満と思われ、40歳代以下の一人暮らしが多いようだが、今回の調査ではデータ不足であり、さらに詳しい調査が必要。 			

【研究成果の還元】

今回の調査研究での研究成果は、舞鶴市におけるごみ収集のあり方見直しに役立てるとともに、高齢化による日常生活での困りごとの一つの例としてごみの問題をとりあげることで地域コミュニティの再生やこれからの住民自治のあり方を考える端緒となるものとする。

【お問い合わせ先】 公共政策学部 京都政策研究センター 職名：准教授 菱木 智一

Tel: 075-703-5319 E-mail: hishiki@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）



市内スーパーに設置の空き缶回収機



月に1回の不燃物収集での空き缶回収



不燃物の種類が多岐に渡るため、人手もかかる



びんの回収も色ごとに細かく分別